

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	4-2-1		事業名	落葉から環境保全と地域交流事業(香りとみどりにあふれたまちづくり)			
担当	南区土木部維持管理課 川口 581-3811						
全 体 計 画							
事業内容	当区では落葉・剪定枝配布と腐葉土製作を協働で行う「みどりのリサイクル事業」が既に軌道に乗っており、今回、これらの事業の拡大を目指し、区内全域を対象に住民・学校等との連携により、「落葉から堆肥へ」を合言葉に、落葉の堆肥等の利用促進を図るための施設の設置や『落葉の講習会』等環境教育を進める。 また、宿根草・香りのある草花(ハーブ)を主体とした循環型モデルガーデンを地域住民の協力を得ながら製作することで、地域住民の連携を促進する。 具体的な取組みとして、学校等において、初年度は落葉収集と環境授業、今年度は腐葉土化実践、3年目は腐葉土利用した花・ハーブの育成・植栽を行う。			<年度別の事業内容>			
				●平成19年度(実績) ・落葉配布・堆肥化公園:5ヶ所 ・落葉堆肥化に関わる講習会等:5回 ●平成20年度(予定) ・落葉配布・堆肥化公園:11ヶ所 ・落葉堆肥化に関わる講習会等:5回 ●平成21年度(予定) ・落葉配布・堆肥化公園:10ヶ所 ・落葉堆肥化に関わる講習会等:5回 ●22年度 ・落葉配布・堆肥化公園:10ヶ所 ・落葉堆肥化に関わる講習会等:5回			
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容			
	●落葉集積・配布公園 ・泉町公園 ・真駒内第一公園 ●堆肥づくり ・ときわアートの丘公園 ・みすまい星の子公園 ・西藤野むつみ公園 ●落葉の堆肥化に関わる講習会等 ・落葉の会(エドウィンダン記念公園) 3回 ・定山溪中学校 1回 ・真駒内曙小学校 1回 ●モデルガーデン ・定山溪中学 ・ミソマップ会館前 ・藤野西通 ●宿根草預託、落葉ヤードづくり等 ・北海道文教短大明清高校			●落葉集積・配布公園 ・藤野そよかぜ公園 ・藤野さわやか公園 ・澄川むつみ公園ほか公園 ●堆肥づくり ・真駒内曙小学校 ・石山小学校 ・定山溪中学校 ・北海道文教大学明清高校ほか ●落葉の堆肥化に関わる講習会等 ・落葉の会(エドウィンダン記念公園) 3回 ・簾舞団地町内会 1回ほか ●エドウィンダン記念公園ウェルカムガーデン製作等 ・サミット関連ウェルカムガーデン製作(実施済み) ・モデルガーデン製作(8~10月) ●落葉の天地返し ・南区落葉の会(エドウィンダン記念公園)			
達成目標の状況							
項 目	18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (予 定)	21年度末 (予 定)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)	
(落葉から環境保全と地域交流事業)参加団体数	2団体	5団体	8団体	11団体	15団体	15団体	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
■市民との連携、市民参加 石山小学校では、今年度、当事業で宿根草の花壇と堆肥置場の製作を実施するが、同校の母親を中心とした「カモミールの会」が花壇の製作に参加することになっており、地域全体で花壇作りに取り組むことから、学校を中心として地域内の連携がより一層図られることが期待できる。 ■企業等との連携・協働 [資金協力] - [人材協力] - [情報協力] - [その他の協力] - ■市民・企業等が参加しやすい環境づくり 落葉をより良い堆肥にするための「落葉講習会」の開催や、ハーブなどの宿根草に詳しい「ハーブコーディネーター」に花壇作りの講習会を依頼するなど、地域住民が参加しやすい環境づくりに努めている。							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	4-2-1		事業名	落葉から環境保全と地域交流事業(香りとみどりにあふれたまちづくり)		
評価(成果)				課題		
市民が興味を持つハーブなど植物材料の紹介により、「ハーブコーディネーター」など地域の新たなリーダーの発掘と参加者の増加が見込まれるとともに、「落葉の会」の参加者を中心に地域内交流の進展、学校参加による世代間交流の進展が期待される。 落葉利用・堆肥化については、当事業において公園内に落葉の集積場所を設置することにより、今まで街路樹等の落ち葉をゴミとして出されていたものを土壌改良剤として、地域の方の家庭菜園や花壇に利用される利点や、落葉処理に関わる集積・運搬・投棄料の費用の節減に寄与している。 また、現在、落葉期には落葉の苦情が大変多く、その対応に苦慮している。さらに、来年度から施行されるゴミの有料化でその対応により一層困難な状況が想定されるが、公園内に落葉集積所を設置することにより、ゴミの有用資材化への誘導と苦情の軽減が期待できる。				今後、落ち葉集積場所の設置箇所を増やそうと考えているが、資材が焼き丸太とコンパネであるため、その耐用年数が短く、取替え時期が比較的早いことから、事業継続の観点で、安価で、耐久性のある施設の製作が求められる。		
今後の事業の予定・方向性						
「地域から出たものを地域に還し利用する」落葉のリサイクルは、環境保全及び教育の面において十分に価値はあるが、堆肥化のための「天地かえし」などその事業を展開するなかで、地域や学校の参加による地域内及び世代間の交流が促進されるなど地域コミュニティの活性化に効果があることから、当事業を当面継続し、落葉集積箇所の増大に努める。 さらに、それらの資材の利用促進を図るために、落葉の講習会等の開催や、堆肥化された落葉を用いてのハーブなどの宿根草を用いた花壇づくりを学校等で実施する。						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	600	2,100	2,100	2,200	7,000
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
予算	一般財源	600	2,100	2,100	2,200	7,000
	事業費	600	2,100	-	-	2,700
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0			0
	市債	0	0			0
実績	その他	0	0			0
	一般財源	600	2,100			2,700
	事業費	799	-	-	-	799
	財源内訳					
	国・道支出金	0				0
事業費の進捗率	市債	0				0
	その他	0				0
	一般財源	799				799
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				41.4%
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
(全体)						
[19年度]						
予算額600千円に対して決算額が799千円と199千円超過した理由は、参加団体への宿根草等草花の支給株数が予定数量を大幅に上回ったことによる。						
[20年度] 予定通り						